

# 母子保健における助産婦のあり方に関する研究

## 助産婦に対するニーズ調査

### — 母子に対する産後支援へのニーズ —

小田切房子、吉田谷 弘 \*、丹羽勝子\*\*

**要 約：** 育児中の母親を対象に、助産婦に対する認識状況と産後支援に関するニーズ調査を実施した。出産介助など助産婦による専門業務の提供に対しても、その職種が助産婦か看護婦かわからない状態で認識され、助産婦に対する認識状況は希薄であった。しかし、助産婦の仕事に対するイメージ化が容易にできる母親は助産婦業務に対する要望が高く、継続した産後支援を望んでいた

**見出し語：** 助産婦業務、助産婦イメージ、育児支援

#### 研究方法

6カ月前後の育児中の母親を対象に、事前に電話にて調査協力の承諾を得、質問紙を送付・回収。回収数200。  
調査期間は1994年11月～12月。

#### 結果および考察

1、対象者の背景および出産状況：年齢は平均32歳（最小25歳、最大41歳）、家族構成は大半が核家族(92%)で、拡大家族は7%。就業状況は無職82%、常勤8%、パート2%、自営業は6%である。出産歴は初産(45%)と2回目(42%)が大半で、3回目(13%)、4回目(1%)。出産場所は病院が71%、医院25%、助産所

自宅が3%。出産介助者は医師(57%)が一番多く助産婦(31%)、助産婦か看護婦かわからないが看護職(以下看護職と表現)が7%である。  
出産場所別の出産介助者は病院では、医師が59%、助産婦が35%、看護職が7%。医院では各々71%、21%、8%。助産所・自宅では84%が助産婦であった。

#### 2、助産婦に対する認識状況

##### 1) 助産婦職へのイメージ化

助産婦職を知っているが68%、なんとなく知っている29%、知らないが3%で、さらに、助産婦の仕事に対するイメージ化になると、できる53%、なんとなくできる45%、できないが2%で、育児中の母親に、助産婦職が十分に認識され

\* 埼玉県立衛生短期大学

\*\* 母と子の研究所

されていない結果が示された。(図1)

その背景となる状況として、入院中の種々の援助をどの職種から受けたかについてみると、助産婦から受けたとする率がやや高いものの、看護婦、看護職からもほぼ同率に受けていた。(表1)

その傾向を出産場所別・出産介助者別に見みると、病院および助産所で出産した者はいずれのケアも助産婦から受けている率が高いものの、看護職から受けたとするものも見られ、また、医院では看護職から受けたとする率が高くケア提供者の職種が意識づけされていない状況が示された。

出産介助者別では、医師が介助した場合、どのケアも、助産婦と看護婦、看護職から受けたとする率がほぼ同率であるが、助産婦が介助した場合は、ケアも助産婦から受けたとする率が高く、出産介助を受けた助産婦から、乳房マッサージ、産後の母体の変化と家族計画指導など継続した援助を受けていた。

これらの結果と助産婦に対するイメージ化との関係を見てみると、産後のケアを助産婦から受けているものは、助産婦の仕事が容易にイメージ化できているが、なんとなくできるとする者は、産後のケアも助産婦か区別がつかないが看護職から受けたとする者が多い。(表2)

出産場所との関係では、助産所で出産した者は全員が容易にイメージ化できているのに対して、病院での出産者はすぐできるが15%、医院では6%と低く、反対に何となくできるが病院出産者の46%、医院出産者の52%に見られ、助産婦に対するイメージ化の希薄さが示さ

れた。(図2)

出産介助者との関係では、助産婦からの介助を受けたものは半数以上(64%)がイメージ化できているが、医師及び看護職からの場合はなんとなくできるが多く、各々52%、58%と半数以上見られた。(図3)

## 2) 助産婦職の業務内容に対する認識状況

助産婦の業務内容についての認識状況は、妊娠中の保健指導および授乳・沐浴・育児指導など保健指導に関するもの(76%)、出産の介助・乳房ケア・家族計画指導など専門技術の提供に関するもの(73%)、妊婦相談・産後の母子相談などの相談業務(66%)はいずれも高率に助産婦の仕事と認識されていた。

しかし、妊婦および産後の家庭訪問(38%)や妊婦診察・産後の母子の診察などの健診業務(33%)への認識は低い状況であった。

以上のことから、助産婦への認識状況は入院中の援助のあり方、出産場所、出産介助者により左右されることが示唆された。

現在、助産婦の多く(67%)は病院に就業し、看護婦と同じ勤務体制で、医師の管理の下で働いていることが多く、また、医院においては就業者(15%)が少なく、病院以上に医師の管理責任が全面に出され、病院医院においては、助産婦はかならずしも専門業務を独自に行っている状況にはなく、その事が助産婦の存在を見えにくくしている結果につながっていると思われる

## 3) 助産婦に望む業務内容

助産婦業務に対する要望は、現状認識よりほとんどの内容において高まっている。中でも相談業務は66%から76%に、家庭訪問は38%から46%に

健診業務は33%から43%に要望が増加している  
(図4)

さらに、出産場所別にその傾向を見てみると  
病院・医院での出産者は、健診業務に対する要  
望が低く、助産所においては97%と高い状況で  
あった。(図5)

この結果は現状の業務状況が反映されている  
と思われる。

また、出産経験を重ねるに従って、助産婦に  
対する要望が高くなっているが、これは妊娠・  
出産経験を重ね、妊娠・出産・育児を客観的  
統合的に捉えられるようになり、助産婦職への  
理解が深まった結果とも考えられる。

助産婦へのイメージ化との関係では、いずれ  
の業務内容に対しても、イメージ化が容易にで  
きるものほど助産婦への要望が高く、イメージ  
化が希薄になるにつれて、要望も低くなってい  
る傾向が示された。(図6)

開業助産婦のように、助産婦の仕事が対象者  
に明確に見える形で、責任を負いながら業務を  
展開している場合は、助産婦に対する要望も強  
いことから、病院や医院での勤務助産婦も看護  
職の中に埋没してしまうのではなく、その存在性  
を仕事を通して提示して行くことが重要であ  
る。助産婦職が具体的にイメージされるよう  
なることは、助産婦活用の活性化につながると  
ともに、対象者への質的サービスの充実にもつ  
ながって行くものと思われる。

### 3、産後の母子支援に対するニーズ

1) 育児不安・健康上の不安に対するニーズ  
育児および母子の健康上の不安に対しては、出  
産場所からの助産婦(看護職)からの援助を望む

ものが一番多く(64%)、出産場所の医師からが  
17%、保健所から紹介された助産婦10%、  
保健婦5%であった。(図7・図8)

出産場所別に見てみると、助産所出産者は全  
員出産場所の助産婦からの援助を希望している  
が、病院でも64%、医院でも57%と半数以  
上は出産場所の助産婦(看護職)からの援助を  
希望している。

出産介助者との関係では、助産婦から出産介  
助を受けたものは、産後もその出産場所の助産婦か  
ら、継続して援助を望む声が高く、また、医師が介  
助した場合でも、産後の支援は助産婦に期待する  
割合が高かった。

助産婦へのイメージ化との関係では、容易にイ  
メージできるものほど、産後の支援を助産婦に求  
める傾向にあり、イメージ化できにくいものほど  
医師に求めている傾向が示された。

その援助方法としては、家庭訪問(43%)、電話  
訪問(46%)が大半であった。(図9)

出産回数との関係では、初産婦は家庭訪問を望  
んでいるが、経産婦では電話訪問が望まれていた  
職業との関係では、常勤・パートなど有職者は  
電話訪問を、自営業および無職では家庭訪問が  
望まれていた。

出産は99%が病院医院で行われ、そこでの助産  
婦のかかわりは、出産と産後一週間のごく短い期  
間で、しかも受け持ち制を取っていないところ  
が多く、断片的となり、母親の望む継続的な援助に  
は対応できていない状況にある。一方、助産所  
での出産率は約1%と少ないが、妊娠から出産  
・育児と個別に継続したかかわりが展開され、  
育児支援の拠点ともなり、母親からの高い評価

を受けている。

母親のニーズに対応して行くためには、開業助産婦のようなかかわりができるよう、病院・医院における助産婦の活用の検討が急務であると思われる。

## 2) 産後の母子支援組織・機関へのニーズ

育児支援に対する要望先であるが、出産場所への要望が最も多く、次いで行政、民間企業となっている。(図10)

出産場所と要望先との関係は、いずれで出産した場合でも、出産場所に対する要望が多いがその中で、医院出産者や助産所出産者が出産場所への要望が多いの対して、病院出産者は行政への要望が多く見られた。

出産場所に対しては、産後の継続したケアや土日・夜間の営業、定期訪問など相談業務の拡大と充実、外来と病棟との関連性の強化、母子同室制・家族立ち会い出産の促進など病院システムに関するもの、信頼関係に対する不満・機械的な対応などスタッフに対する要望であった

行政に対しては、保険適応範囲の拡大・無料診察券の増加・育児休業中の給与支給の法制化などの経済的支援、助産婦等の訪問回数の増加・産後の相談窓口の開設・第2子以降の訪問指導など、相談業務拡大への援助、最寄りの助産所の紹介・行政援助に対するPRなどの強化、保育施設の増加などが挙げられた。

民間企業に対しては、時間的な柔軟性、資格の明示など、技術レベルの向上、多様なサービス、サービスの内容・システムなどPRの強化が挙げられた。

## 結 論

1. 母親たちの助産婦に対するイメージ化は希薄である。それは助産婦の大半が就業している病院・医院において、助産婦であることが対象に分かる形で業務展開がなされていない現状の反映と思われる。
2. 助産婦に対するイメージ化が容易な母親においては、助産婦の本来的業務に対する要望が高い。
3. 育児不安への対応など、産後の育児支援に対しては、出産場所の助産婦・看護職による継続した援助が最も望まれている。

今回の調査から、助産婦に対するニーズとして出産場所からの継続した援助が挙げられたが、現在、ほとんどの助産婦は病院等での勤務助産婦で、勤務施設の体制上、妊産婦に対する個別的・継続的なかかわりが不可能な状況にある。

一方、助産所においては、妊娠の時点から育児まで継続したかかわりの中で、助産婦の業務が相手に見える形で提供され評価されている。

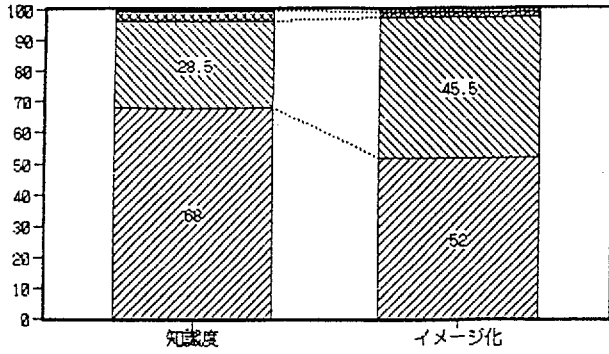
今後、対象者のニーズに対応し、質の高いサービスを提供するためには、勤務助産婦の活用が重要な課題になると思われる。

そこで、助産所を拠点に子育てグループを作り活動している母親を対象に、聞き取り調査を行い、助産婦に対するニーズとその具体的な対応策の検討を深めたい。

## 参考文献

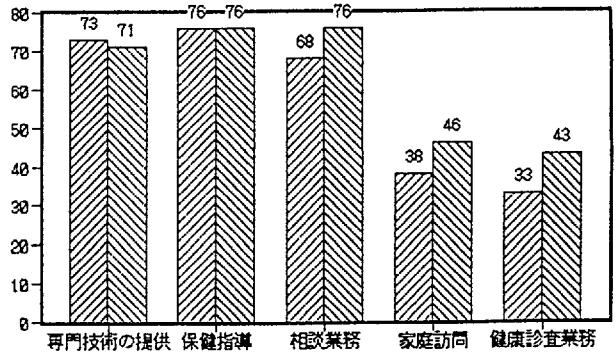
- 後藤 敦、地域母子保健における助産婦-保健婦実態調査、平成5年度 厚生省心身障害研究報告書、1994。

図1 助産婦への認識状況



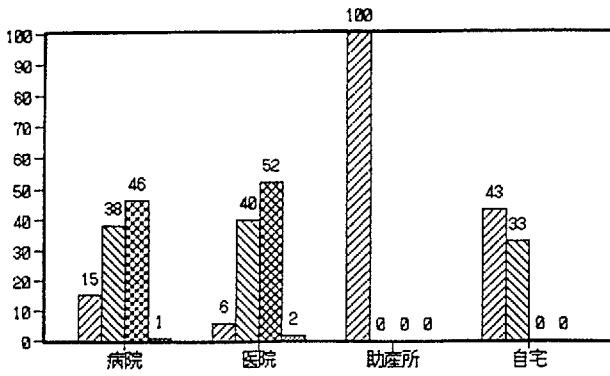
知識度 □ 知っている □ なんとなく □ 知らない □ 無解答  
 イメージ化 □ できる □ なんとなく □ できない □ 無解答

図4 助産婦業務に対する現状認識と今後の要望



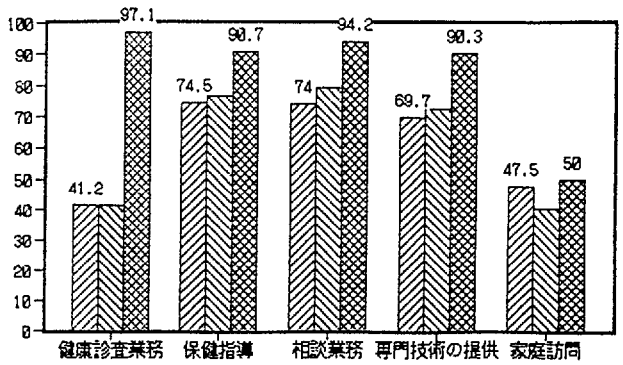
□ 現状認識 □ 今後の要望

図2 助産婦に対するイメージ化と出産場所との関係



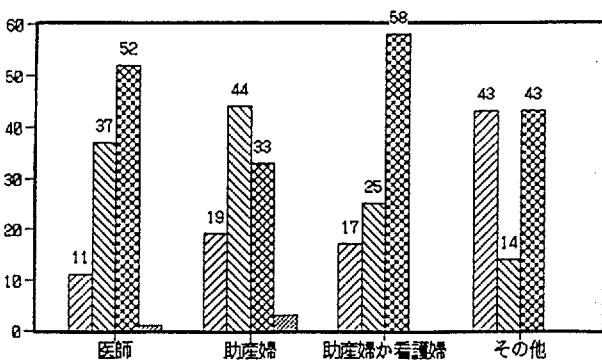
□ すぐできる □ できる □ なんとなく □ できない

図5 出産場所別助産婦に望む業務内容



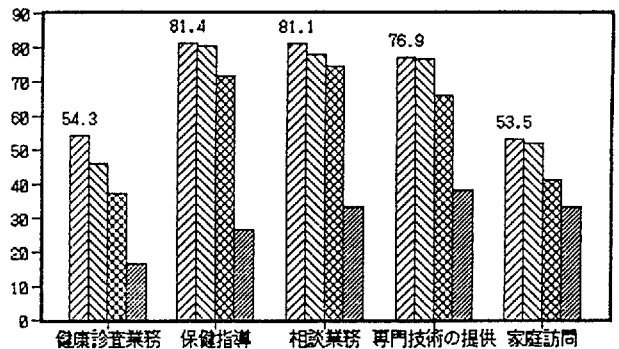
□ 病院 □ 医院 □ 助産所・自宅

図3 助産婦に対するイメージ化と出産助産者との関係



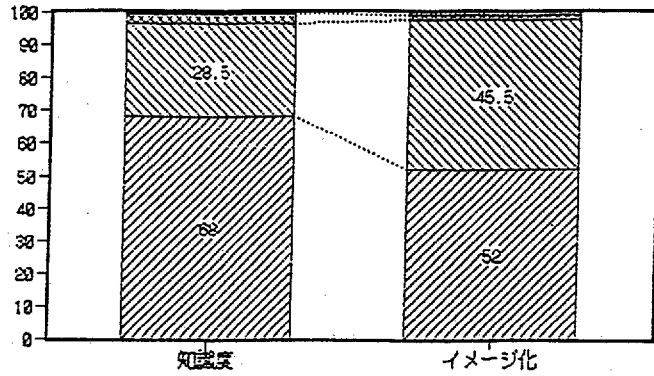
□ すぐできる □ できる □ なんとなく □ できない

図6 助産婦に対するイメージ化と助産婦に望む業務内容



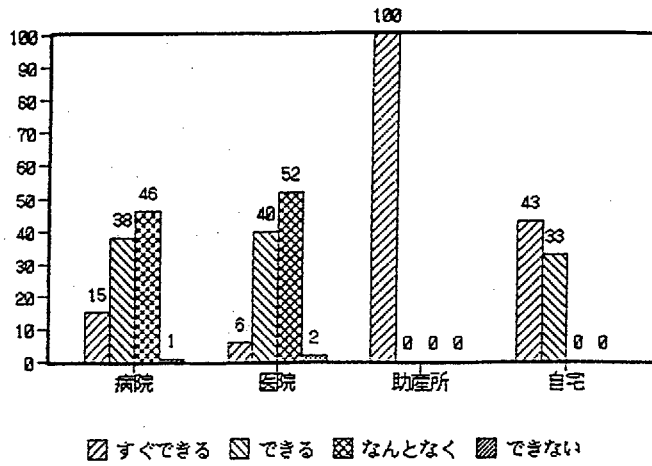
□ すぐできる □ できる □ なんとなく □ できない

図1 助産婦への認識状況



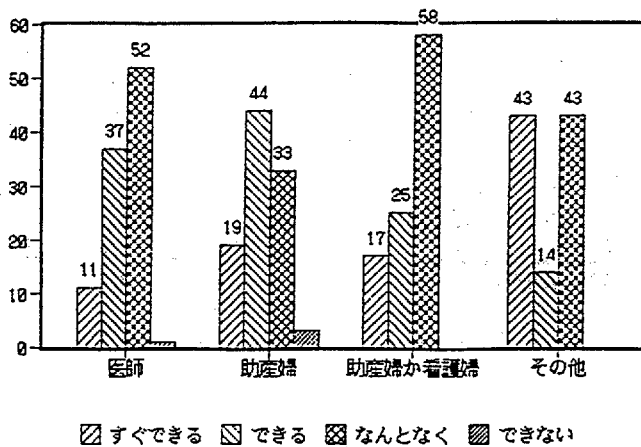
知識度 □ 知っている □ なんとなく □ 知らない □ 無回答  
 イメージ化 □ できる □ なんとなく □ できない □ 無回答

図2 助産婦に対するイメージ化と出産場所との関係



□ すぐできる □ できる □ なんとなく □ できない

図3 助産婦に対するイメージ化と出産介助者との関係



□ すぐできる □ できる □ なんとなく □ できない

図4 助産婦業務に対する現状認識と今後の要望

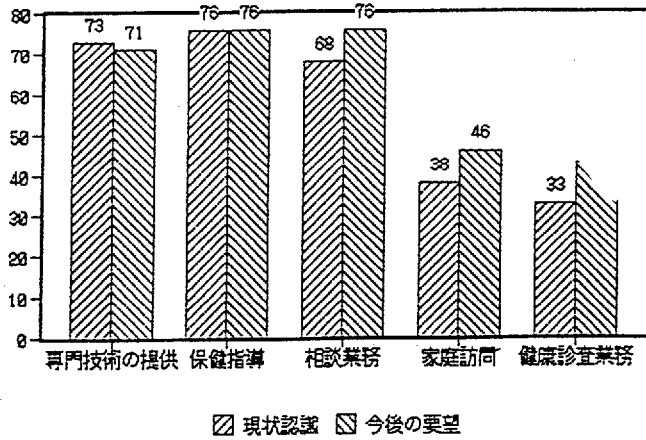


図5 出産場所別助産婦に望む業務内容

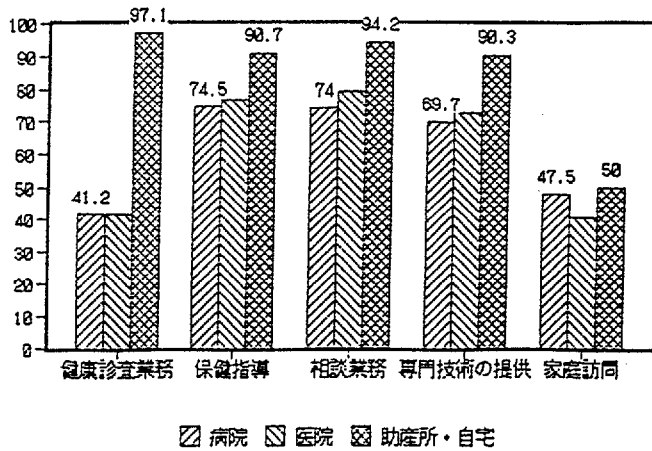


図6 助産婦に対するイメージ化と助産婦に望む業務内容

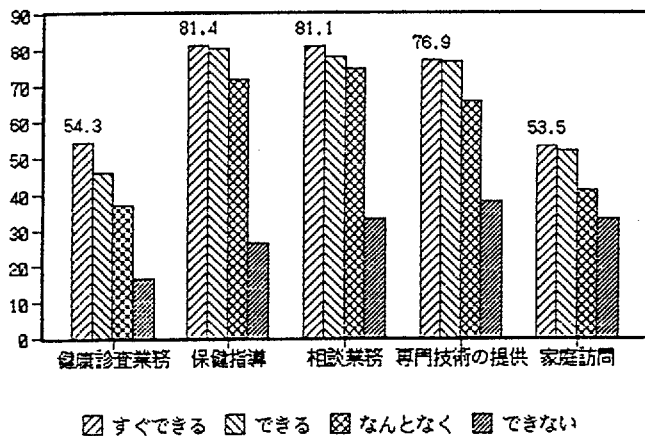
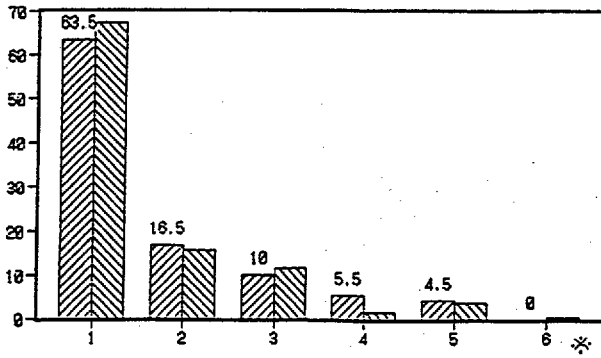
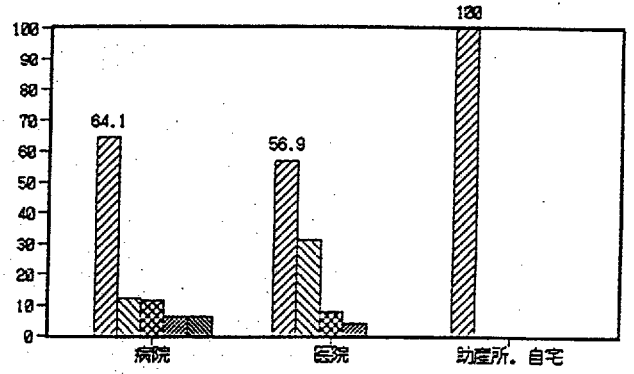


図7 育児・健康上の不安に対する援助希望職種



☒ 育児上の不安 ☒ 健康上の不安

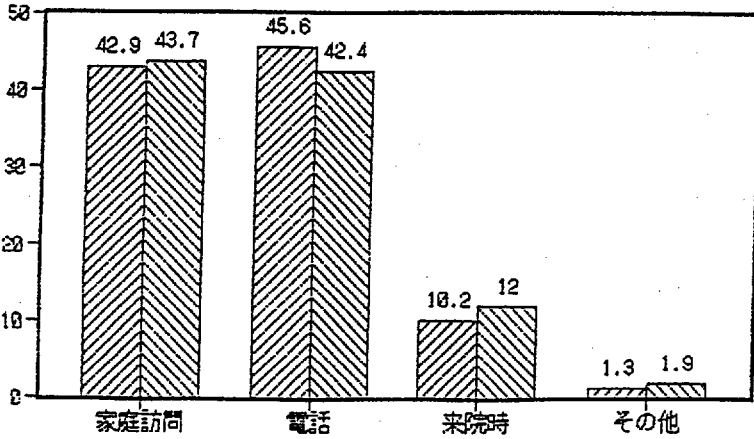
図8 出産場所別育児不安に対する援助希望職種



☒ 1 ☒ 2 ☒ 3 ☒ 4 ☒ 5 ※

- ※
1. 出産場所の助産婦・看護職
  2. 出産場所の医師
  3. 保健所から紹介された助産婦
  4. 保健所から紹介された保健婦
  5. その他
  6. 無回答

図9 希望援助方法



☒ 育児不安 ☒ 健康不安

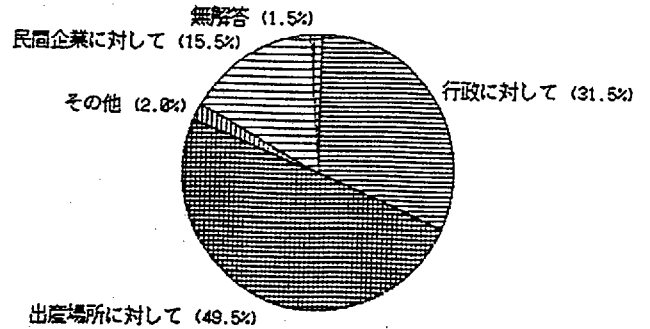


図10 対象別産後支援への要望（最優先）



表1 入院中における職種別援助内容

N = 200

	医師	助産婦	看護婦	看護職(助産婦が看護職が区別つかない)	その他	無回答
沐浴指導	1 (0.5)	75 (37.5)	51 (25.5)	63 (31.5)	1 (0.5)	9 (4.5)
授乳指導	4 (2.0)	82 (41.0)	46 (23.0)	61 (30.5)	1 (0.5)	6 (3.0)
乳房マッサージ	3 (1.5)	82 (41.0)	39 (19.5)	58 (29.0)	3 (1.5)	15 (7.5)
産褥体操	1 (0.5)	38 (19.0)	41 (20.5)	27 (13.5)	7 (3.5)	86 (43.0)
衣類着脱・おむつ交換	1 (0.5)	55 (27.5)	59 (29.5)	49 (24.5)	4 (2.0)	32 (16.0)
産後の母体の変化	22 (11.0)	62 (31.0)	46 (23.0)	41 (20.5)	2 (1.0)	27 (13.5)
家族計画指導	18 (9.0)	60 (30.0)	39 (19.5)	40 (20.0)	1 (0.5)	42 (21.0)
赤ちゃんの健康	30 (15.0)	45 (22.5)	37 (18.5)	36 (18.0)	3 (1.5)	49 (24.5)

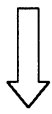
表2 助産婦に対するイメージ化と入院中における職種別援助内容

すぐできる N=29 (100%)	医師	助産婦	看護婦	看護職(助産婦が看護職が区別つかない)	その他	無回答
沐浴指導	0 (0.0)	17 (58.6)	5 (17.2)	0 (0.0)	2 (0.5)	9 (4.5)
授乳指導	0 (0.0)	20 (69.0)	4 (13.8)	0 (0.0)	1 (0.5)	6 (3.0)
乳房マッサージ	0 (0.0)	21 (72.4)	3 (10.3)	0 (0.0)	2 (1.5)	15 (7.5)
産褥体操	0 (0.0)	8 (27.6)	8 (27.6)	0 (0.0)	13 (3.5)	86 (43.0)
衣類着脱・おむつ交換	0 (0.0)	14 (48.3)	6 (20.7)	0 (0.0)	6 (2.0)	32 (16.0)
産後の母体の変化	3 (10.3)	14 (48.3)	5 (17.2)	0 (0.0)	6 (1.0)	27 (13.5)
家族計画指導	1 (3.4)	12 (41.4)	7 (24.1)	0 (0.0)	7 (0.5)	42 (21.0)
赤ちゃんの健康	4 (13.8)	10 (34.5)	5 (17.2)	0 (0.0)	6 (1.5)	49 (24.5)
できる N=75 (100%)	医師	助産婦	看護婦	看護職(助産婦が看護職が区別つかない)	その他	無回答
沐浴指導	0 (0.0)	26 (34.7)	20 (26.7)	26 (34.7)	0 (0.0)	3 (4.0)
授乳指導	0 (0.0)	27 (36.0)	14 (18.7)	32 (42.7)	0 (0.0)	2 (2.7)
乳房マッサージ	0 (0.0)	28 (37.3)	15 (20.0)	29 (38.7)	0 (0.0)	3 (4.0)
産褥体操	0 (0.0)	12 (18.7)	14 (18.7)	16 (21.3)	3 (4.0)	30 (40.0)
衣類着脱・おむつ交換	1 (1.3)	16 (21.3)	22 (29.3)	24 (32.0)	1 (1.3)	11 (14.7)
産後の母体の変化	10 (13.3)	19 (25.3)	20 (26.7)	20 (26.7)	(0.0)	6 (8.0)
家族計画指導	8 (10.7)	19 (25.3)	16 (21.3)	21 (28.0)	(0.0)	11 (14.7)
赤ちゃんの健康	13 (17.3)	12 (16.0)	16 (21.3)	14 (18.7)	1 (1.3)	19 (25.3)
なんとなくできる N=91 (100%)	医師	助産婦	看護婦	看護職(助産婦が看護職が区別つかない)	その他	無回答
沐浴指導	0 (0.0)	31 (34.1)	25 (27.5)	30 (33.0)	1 (1.1)	4 (4.4)
授乳指導	3 (3.3)	33 (36.3)	27 (29.7)	24 (26.4)	1 (1.1)	3 (3.3)
乳房マッサージ	2 (2.2)	31 (34.1)	21 (23.1)	24 (26.4)	3 (3.3)	10 (11.0)
産褥体操	1 (1.1)	16 (17.6)	19 (20.9)	11 (12.1)	4 (4.4)	40 (44.4)
衣類着脱・おむつ交換	0 (0.0)	24 (26.4)	30 (33.0)	20 (22.0)	3 (3.3)	14 (15.4)
産後の母体の変化	7 (7.7)	28 (30.8)	21 (23.1)	19 (20.9)	2 (2.2)	14 (15.4)
家族計画指導	9 (9.9)	27 (29.7)	16 (17.6)	17 (18.7)	1 (1.1)	21 (23.1)
赤ちゃんの健康	11 (12.1)	22 (24.2)	16 (17.6)	17 (18.7)	2 (2.2)	23 (25.3)
できない N=3 (100%)	医師	助産婦	看護婦	看護職(助産婦が看護職が区別つかない)	その他	無回答
沐浴指導	1 (33.3)	1 (33.3)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
授乳指導	1 (33.3)	1 (33.3)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
乳房マッサージ	1 (33.3)	1 (33.3)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)
産褥体操	0 (0.0)	2 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)
衣類着脱・おむつ交換	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	1 (33.3)
産後の母体の変化	2 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)
家族計画指導	0 (0.0)	1 (33.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (100)
赤ちゃんの健康	2 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (33.3)



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:育児中の母親を対象に、助産婦に対する認識状況と産後支援に関するニーズ調査を実施した。出産介助など助産婦による専門業務の提供に対しても、その職種が助産婦か看護婦か分からない状態で認識され、助産婦に対する認識状況は希薄であった。しかし、助産婦の仕事に対するイメージ化が容易にできる母親は助産婦業務に対する要望が高く、継続した産後支援を望んでいた